

← 地震発生直後については中面を参照

 災害が発生したら

正確な情報を収集することに努めてください。

- 倒れやすいものから離れ、落下物に注意。
- むやみに動かず安全を確認する。
- 非常口やドア等を開けて避難口を確保。
- 避難は徒歩で、荷物は最小限にする。
 (火を扱っている場合は、身の安全を確認した上で火の始末をする)
- エレベーターは使用せず階段で避難。
- 正確な情報収集に努め、なるべく一人では行動しない。
- 協力し合い負傷者の救護や初期消火に努める。
- 家族との安否確認および大学へ安否確認。

 日頃の準備

地震の被害を軽減するための備えを忘れずに。

- 避難場所の確認(大学付近および自宅周辺等)。
- 家族との連絡方法および待ち合わせ場所の確認。
- 災害伝言サービスの確認と登録。
 (メール宛先等の事前登録が必要)
- 帰宅ルートおよび所要時間の確認。
 (災害時徒歩約2.5km/h)
- 緊急時メモの作成・記入。
- 具体的な情報収集手段および緊急避難場所等の確認。(大学および通学途中)
- 転倒防止対策や緊急時アイテムの確認。
- 大学および友人等への連絡方法の確認およびリスト整備。

 大学への連絡方法

落ち着いたら
 大学へ安否を知らせてください。

【安否確認】

震度5弱以上の地震発生後、全学生に安否確認メールが送信されますので、学ナビから回答してください。

【メール・FAX・はがきによる報告】

学ナビから安否確認の回答ができない場合、大学にお知らせしたいことがある場合は、メール・FAX・はがきにて、氏名・学籍番号・本人や家族のケガの有無・住所・困っていること・自宅や避難場所付近の状況を記入し、次の宛先に送付してください。

〒187-8578
 東京都小平市花小金井南町2-8-4
 嘉悦大学 学生支援センター
 Eメール: edu-sd@kaetsu.ac.jp
 FAX: 042-463-1778

 緊急時に役立つもの

日頃から携帯しておく便利な物

- | | |
|--|---------------------------------------|
| <input type="checkbox"/> 現金(小銭も) | <input type="checkbox"/> 身分証明書(免許証等) |
| <input type="checkbox"/> 健康保険証 | <input type="checkbox"/> アドレス帳(家族、友人) |
| <input type="checkbox"/> タオル・ばんそうこう・包帯 | の連絡先を記入) |
| <input type="checkbox"/> 手回し充電ラジオ・ライト | <input type="checkbox"/> 雨具(カッパ等) |
| <input type="checkbox"/> ティッシュ・ | <input type="checkbox"/> 携帯充電用 |
| ウエットティッシュ | USBケーブル |
| <input type="checkbox"/> 非常用保温アルミシート | <input type="checkbox"/> ポリエチレン製ごみ袋 |
| <input type="checkbox"/> チョコレート・あめ等 | <input type="checkbox"/> 油性マジックペン |

その他非常時に必要なアイテム

- | | |
|------------------------------------|-----------------------------------|
| <input type="checkbox"/> 貯金通帳 | <input type="checkbox"/> 印鑑 |
| <input type="checkbox"/> 常備薬とその処方箋 | <input type="checkbox"/> 上着・下着・靴下 |
| <input type="checkbox"/> 運動靴 | <input type="checkbox"/> リュック |
| <input type="checkbox"/> 卓上コンロ | <input type="checkbox"/> 懐中電灯 |
| <input type="checkbox"/> ひも・ロープ | <input type="checkbox"/> ろうそく |
| <input type="checkbox"/> 予備電池 | <input type="checkbox"/> 缶切り・栓抜き |
| <input type="checkbox"/> スリッパ | <input type="checkbox"/> 洗面用具 |
| <input type="checkbox"/> 使い捨てカイロ | <input type="checkbox"/> 非常用食料・水 |

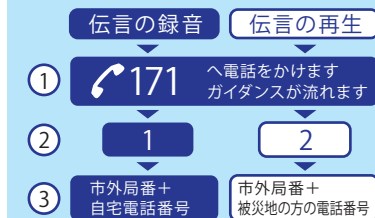
地震災害 対応マニュアル

学生用

建物の損壊や交通機関に大きな被害が出るような地震(震度5弱程度以上が目安)が発生した場合は、本マニュアルを参考にして、身の安全を守り落ち着いて行動してください。

NTT災害伝言ダイヤルサービス

地震など大災害発生時に、安否確認等の電話が爆発的に増加し、つながりにくい状況になった場合、提供されるサービス。



事前に記入しておきましょう
 市外局番 電話番号

- ※被災地の方も、被災地以外の方も利用方法は同じです。
- 利用可能な端末/NTTの一般電話、公衆電話、携帯電話
- 蓄積伝言数/1電話番号あたり1~20伝言
- 録音時間/1伝言 30秒以内

事前の登録が必要です! (事前にテストをしてください)

携帯各社の災害伝言板サービス

大規模災害時に携帯電話から安否確認(安否情報の登録)ができる災害用伝言板サービス。あらかじめ指定したご家族や知人に対して、災害用伝言板に登録されたことをメールでお知らせする機能も提供される。また、インターネットからも安否情報の確認が可能です。

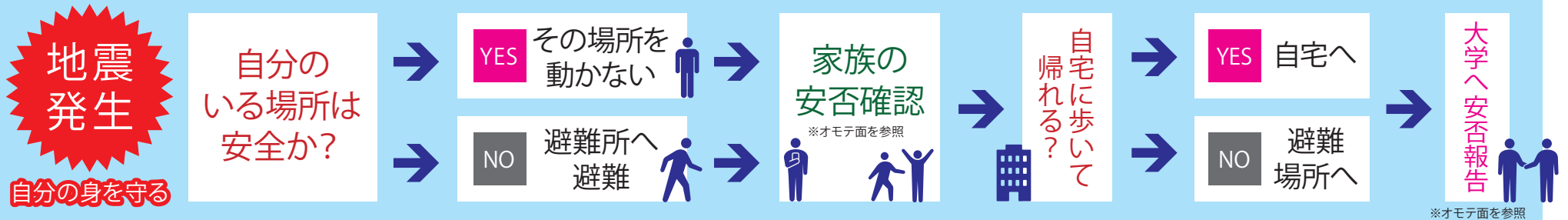
各社のQRコードはこちら



NTTドコモ au ソフトバンク

- NTTドコモ <http://dengon.docomo.ne.jp/>
- au <http://dengon.ezweb.ne.jp/>
- ソフトバンク <http://dengon.softbank.ne.jp/>

地震発生直後 → 揺れがおさまったら → 落ち着いたら① → 落ち着いたら②



ポイント

ポイント

ポイント

ポイント

大学にいるとき

- ❑ 窓や棚、ガラス等割れたり中のものが飛び出しそうなものから離れる。
- ❑ 机の下等にもぐるか、バッグ・衣類等で頭を覆うなどして、落下物から頭と手足を守る。
- ❑ 余裕があれば、ドア付近にいる人は、ドアを開け、出口を確保する。
- ❑ 広場やグラウンドなど、落下物がない場所にいる場合は、その場で座り込み揺れがおさまるのを待つ。

- 自分自身の心構え**
- ❑ 冷静に、落ち着く。
 - ❑ 建物の傾き、壁のひび等を確認。
 - ❑ 火災が起きていないか? 火災の場合は自分の身が安全な範囲で周囲の協力を得ながら初期消火。また、消火が困難と判断した場合は、火から離れる。
 - ❑ 負傷者はいないか? 負傷者がいる場合は安全な範囲で周囲の協力を得ながら応急手当をし、学生センターへ連絡。
 - ❑ 余震の可能性もあるため、あわてずしばらく様子を見る。

- 避難所へ移動する判断基準**
- ❑ ガラス、黒板、テレビ等が倒れるおそれがなく、天井からの落下物が無いと確認できた場合は、動かないほうが安全である。

- 行動に移るときの注意点**
- ❑ 火災の場合は煙を吸わないよう、タオル等で口を覆う。
 - ❑ どのルートで移動すれば安全か確認し、エレベーターは使わずに階段で移動。

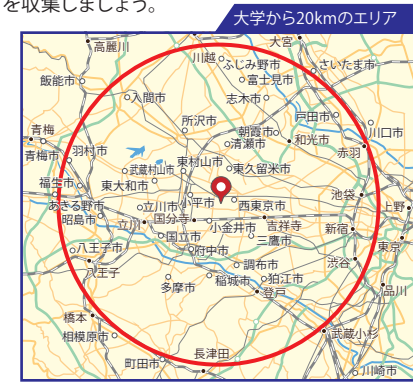
避難場所は、広く、火災による延焼のおそれがないところが適しています。

大学ではあらかじめ以下の場所を避難場所として想定していますが、地震等の状況により安全な場所へ避難してください。

- 花小金井キャンパス**
 - ・グラウンド
- 広域避難場所 (本校南側隣接地)**
 - ・都立小金井公園
 - ・小金井カントリー倶楽部

帰宅する? 学校に残る?

余震がおさまり落ち着いたら、自宅に帰るか検討する。交通機関が動いていない場合は歩いて帰宅することになります。その場合の目安は20km。20kmよりも遠い人は避難場所へ。また、チェーンメールなどに惑わされず、テレビ・ラジオ等で正確な情報を収集しましょう。



通学中

- ❑ 周辺の状況を注意し、身の安全の確保を最優先とする。
- ❑ 塀、電柱、自動販売機などから離れ、落下物にも注意する。

- ❑ 被害状況を正しく把握する。
- ❑ 事前に家族と相談して決めた避難場所へ移動する。ただし、被災場所やその場の状況によっては安全を最優先し別の避難場所へ移動する。
- ❑ 避難中は警察や消防の指示に従う。

- ❑ 多くの人が一斉に帰宅すると各所で混雑が発生するため、余裕を持つことも大切。周りの状況を確認してから帰宅しましょう。
- ❑ 災害時の歩行速度は約2.5km/時程度、10kmは4時間を要することになります。
- ❑ 日没後の行動は危険です。夜間は犯罪に巻き込まれる可能性もあるため、1人での行動は避けましょう。

メモ: 家族の電話番号
